

***条例の制定について**

自転車は利便性が高く身近な交通手段として、子どもから高齢者に至る幅広い年齢層に利用されています。しかし、その身近さゆえ、少しの気のゆるみが重大な事故の発生につながります。

そこで、自転車の安全で適正な利用促進と、万一の自転車事故に備えた保険等への加入を義務付ける自転車条例が、令和元年10月1日から施行されました。(罰則はありません)

自転車利用者が歩行者と正面衝突し、自転車利用者に対し、およそ9,500万円の高額賠償を求められた事例も発生しています。

このような万一に備えて、県は被害者保護とともに、加害者(子どもが利用する場合には保護者)の経済的な負担を軽減させるために自転車保険の加入を促進しています。



***自転車損害賠償保険とは**

自転車利用中の事故により他人にケガをさせた場合などに備えて、自分自身の生命又は身体ではなく、相手の生命または身体の損害を補償できる保険のことです。

具体的には、保険会社が扱う自転車向けの保険のほかに、自動車保険や火災保険等の特約としての個人賠償責任保険、共済、各種団体保険(職域での任意保険や学校のPTA保険等)、そのほか業務活動中の事故に備えた施設所有者賠償責任保険、自転車安全整備士による点検を受けたことで加入できるTSマーク保険もあります。本人が気付かないうちに、既に加している場合もありますのでチェックしてみてください。

***保険料**

保険料は一般に補償金額や補償の範囲などによって異なりますが、一人の場合、年間2,000～4,000円程度、家族全員を補償するタイプだと、年間4,500～8,000円程度になります。



令和元年12月15日発行(第18号)
発行:松浪地区まちづから協議会
HP: <https://matunami.jimdo.com/>
印刷:(有) 仲手川印刷



松浪コミュニティセンター開館五周年記念式典 & コミセンまつり

松浪地区各校PTA(松浪中/鈴木・松浪小/土屋・緑が浜小/椿・汐見台小/和田)

令和元年10月6日(日)に、松浪コミュニティセンター開館五周年記念式典とコミセンまつりが開催されました。

9時からの記念式典には、35名もの関係者の皆さまにご参列いただきました。ヴァイオリンとピアノの記念演奏でスタートし、佐藤市長を始め来賓の皆さまからの祝辞につづき、松浪コミュニティセンター設立の経緯がスライドで紹介されました。

式典後のコミセンまつりは11時から開始予定だったところ、大勢の来場者の皆さまが早くからお待ちいただいたため、開始時間を繰り上げて開始し、16時の終了までに総勢約1,000名以上の方にご来場いただき、大盛況でした。

コミセンまつりは、模擬店と発表会・体験コーナーの2つの部で構成されていました。

模擬店では、ミニカレー、タピオカジュース、綿菓子など9品が提供されていたなかで、当初予想を大幅に上回る方にご来場いただき、各模擬店前に長蛇の列ができるほどでした。ご来場いただいた皆さまには、長い時間

お待ちいただきありがとうございました。

発表会・体験コーナーは、9団体にご参加いただきました。太極拳や自彊術のお披露目では飛び入り参加を募り、会場を巻き込んで楽しく進行いただきました。また、オカリナや合唱、子どもたちのフラダンスや津軽三味線、アフリカの太鼓など、日ごろの練習の成果を発表いただきました。

参加いただいた団体うちの、汐小ダンスクラブの参加者からこんなコメントをいただきました。

「チームの皆で心をついででき、良いダンスができましたと思います。広く地域の皆さまに披露させていただける機会をいただき、ありがとうございます。」

運営委員に携わることで、松浪コミセンはずいぶん前から地域で切望されて、今日このような立派なコミセンがあるということを知りました。先人が残してくださった地域資産に感謝するとともに、素敵な地域集会所をもっと活用してもらおうと、新たな地域の魅力を発見した機会でもありました。

地域団体の紹介

松浪二丁目自治会

松浪二丁目自治会 会長 長谷川 清

松浪二丁目自治会では毎年多くの行事を実施しています。その中で、参加者の多い行事を紹介します。

2月に松浪公園(ぐるぐる公園)で実施する『もちつき大会』。松涛会・じゃんけん子ども会と共催で実施します。3年前から子ども用の杵も用意し、小さなお子様も一人で餅つきを体験できるようにしました。できたてのお餅や豚汁を食べながらの楽しいひとときです。参加者は230名、一番集客力のあるイベントです。

6月に実施する『地引き網大会』。松浪地区に住んでいないと経験できない貴重な体験です。昨年今年と大漁で、湘南名物シラスの他にアジ、カマス、タイ他いろいろな魚が捕れました。子どもたちにとって、目の前で生きた魚を見て触れる貴重な体験は、大きくなった時の思い出になると思います。参加者は180名です。

7～8月の夏休み期間中の朝7時30分から約20分、青少年広場で実施する『ラジオ体操』。お母さんに連れられた小さなお子様、松涛会メンバー他多くのお年寄りも元気に参加します。参加者は130名です。

これらの行事を通して、自治会員の親睦をはかり、顔見知りの関係ができればと思っています。



汐見台小学校区青少年育成推進協議会

汐見台小学校区青少年育成推進協議会
副会長 佐々木 睦子

9月15日、汐見台小学校にて「第7回なぎさの子☆村まつり」が行われ、たくさんの方が遊びにきてくれました。

このおまつりは、『子どもによる子どものための村まつり』です。小学生、中学生からスタッフを募り、地域の人と一緒に企画し、当日の運営まで子どもたちが関わります。スタッフ村・たべる村・つくる村・あそぶ村・ステージ村・ぶんか村の村長さんを中心とするそれぞれの村が一体となり、小中学生・学校・PTA・子ども会・地域の方が作りあげる楽しい村まつりでした。

今年も自分たちが発案した「あてくじ」を小学生が担当し、卒業生が「綿菓子の販売」をしました。また、「レッツトライ開き読み」、「障害物パン食い競争」、夏休みにたくさん学習をした「デジタルサイエンスの発表」、松浪中学校の生徒会の「平和の発表」など、新しい企画やバージョンアップした企画もありました。小学校の廊下に掲示板を設けて、各村のお知らせや、おまつり後の写真を掲載して、子どもたちとの交流を工夫してみました。

たくさんの方々の協力と想いで行われた「なぎさの子☆村まつり」でした。



編集後記 開館五周年記念式典・松浪コミセンまつりにご協力、ご参加していただきましてありがとうございました。(佐々木睦子)
今誌も楽しい記事が満載です。松浪地区の様子を伝えられるような「たより」にしていきたいと考えています。(川田昌子)

令和元年松浪地区市民集会

松浪地区まちぢから協議会 副会長 末松 一豊



9月14日(土) 13時30分より、松浪コミュニティセンターで市民集会在開催されました。茅ヶ崎市からは佐藤市長をはじめ、塩崎、岸両副市長、竹内教育長を含む18名、市議会議員は8名、市民の皆さまの出席を合わせて、合計75名の参加となりました。



冒頭、松浪地区まちぢから協議会植松会長の挨拶の中で、台風15号に関する緊急質問が提起され、これに対して市民安全部長から情報提供が行われました。また、行政からの情報提供は、「財務状況について」と「ごみ処理について」の2件でした。

本年度の市民集会的取組みにあたっては、例年同様に地区住民から事前質問を募集し、これを市民相談課に提出して行政側の回答を得た上で、当日の議事運営を分科会形式ではなく、全体会形式で運営しました。

事前質問24件から13件に絞り、5つのジャンルに分類し、議論しました。



- 環境問題関連について
 - ごみ集積場所について
- 防災対策関連について
 - 感震ブレイカー設置後の対応
 - 在宅被災者
 - 避難行動要支援システム
- 都市・整備関連について
 - 道路整備プログラム (茅ヶ崎辻堂線)の進捗状況
 - 私道の公道への転用要望
 - 空家対策
 - ブロック塀対策の進捗
- 教育・子ども関連について
 - 旧小和田消防署跡地の活用
 - 浜須賀中学校の校舎改修
 - 児童クラブについて
- その他
 - 自治会加入率の低下への対応策
 - 運転免許証自主返納への行政支援

当日の議事は休憩なしで3時間ほどとなりました。なお、当日議論しなかった事前質問と回答及び議事録についてはHPに掲載しております。

第38回 福祉ふれあいまつり

松浪地区社会福祉協議会 事務局 川村 恵美



はできません。当日は、ステージ、展示、模擬店、福祉体験スタンプラリー、遊び体験、フリーマーケットなどの場で、小さなお子さまからボランティアの中学生、地域のお年寄りがいろいろな形でふれあうことのできた一日であったと感じています。

松浪地区社会福祉協議会と松浪地区まちぢから協議会の共催事業であり、秋の恒例行事となりました「福祉ふれあいまつり」が、10月20日(日)松浪小学校で開催されました。心配された台風も過ぎ去り、お天気に恵まれた一日となりました。この日のために各自治会や各団体から実行委員を出していただき、7月から打ち合わせを3回行い、入念に準備を進めてきました。

「福祉ふれあいまつり」がこのように毎年盛大に開催できるのは、地域の多くの団体の熱意と協力の結果であることは言うまでもありません。また、多量の楽器、展示用器材などの重量物の運搬、校内の警備、そして何よりも会場を解放して下さった松浪小学校の校長先生をはじめ、先生方とPTAの皆さんの陰の働きを忘れること

はできません。昨日、予想を超える大きな災害に見舞われることがニュースでも報道されています。避難場所に集まったとき、このような地域の行事で見かけた人、話した人がいればどんなに心強いことかと思えます。

多くの方に来ていただき笑顔あふれる時間を過ごす、そして多くのふれあいが生まれる、こんな私たち松浪地区の「福祉ふれあいまつり」が今後もいつまでも続いていくことを願っています。



車椅子



竹馬



紙飛行機

煌人にエール!! Vol.2 松浪地区出身の煌人(きらびと)をご紹介します、エールを送りましょう。

今回の煌人は、ひばりが丘にお住いの「小橋田ひろみさん」です。彼女は現在、浜須賀中学校1年生。今年、松浪小学校を卒業して中学生になったばかりです。

彼女は、平成30年6月10日に行われた「第40回ジュニア・ギター・コンクール」の小学校高学年の部で金賞首席(1位)を獲得しました。また、今年の3月21日に行われた「ギター大好きみんなあつまれギターコンペティション」児童の部で2度目の金賞を手に入れた煌人です。

クラシックギターを始めたきっかけは、テレビでオーケストラの演奏を見て弦楽器に興味を持ち、ピアノをやっていたお母様が、幼児でもきちんと楽譜が読めたほうが良いかと考え、村治先生の「ギターだーいすき」という本で教え、2歳10か月で弦を押えて曲を弾きました。みるみる上達していく娘の非凡な才能に気付いて、専門家に習わせるようにしました。お母様はギターを毎日楽しく練習できるように、10分練習をするとシールを1枚貼り、一日3回の練習を毎日続けていました。

初舞台は3歳のコンクール。去年の金賞は7度目にして初の栄冠でした。ひろみさんは、「この時がギターをやってきて一番うれしかった」と語ってくれました。

浜竹幼稚園の時から、毎日2時間、週末の3時間の練習は欠かせません。月に3回はレッスンを受けに東京まで通っています。先生からも「ひろみさんはとても感受性が豊かで、時間をかけて丁寧にじっくりコツコツと取り組み、難しいパートも何回も練習して出来るようになっていきます。」と言われます。今まで、ギターが嫌になったことは一度も無く、練習に疲れた時には、絵を描いたり、茶道を楽しんだり、大好きなゴザクラインコの「ピーちゃん」が、肩に乗ったり、ギターの弦を啄んだりして癒やしてくれるので、また練習をしていますと、ピーちゃんのことを話しているひろみさんは本当にかわいい中学1年生です。

そんな彼女がギターの弦に触れると自信が溢れ、力強い音色を奏でるのです。今は、映画「マチネのおわりに」にでてくる「大聖堂」という難しい曲を、1月のコンクールに向けて一生懸命練習し、コンクールでは部門を超えた『最優秀賞』を獲得するのが目標です。

プロのギターリストを目指してコツコツ努力を続けているかわいい煌人「小橋田ひろみさん」を皆さんで応援していきたいと思えます。(記:佐々木)

松浪地区防災訓練

松浪地区防災訓練は、秋晴れの11月10日(日)に開催され、松浪小学校・松浪中学校の2拠点に分かれて合計800人以上の方が参加されました。また、ボランティアで松浪中学校の生徒も多数参加してもらい、地域の自治会に配属され、地域住民との交流を図ることもできました。

小学校拠点では佐藤市長、中学校拠点では松浪地区まちぢから協議会植松会長の挨拶からスタートし、最初に市防災対策課によるクラスター火災の恐怖、及び避難行動要支援者制度の講話がありました。

今回の訓練のメインテーマは「体の不自由な方の避難行動支援」でした。このことは国から「災害時には、まず



防災対策部会

部会長 渡邊 勇次

共助、そして次に公助」の指導からくるものです。そのため、初めて両拠点で車イスでの搬送・操作訓練を実行しました。

廊下・スロープ・段差を予め設営して、実際に操作しましたが、車イスの操作経験者が少なかったのは意外でした。また、体格の良い方が乗った車イスを小柄の女性が操作することが難しいということも分かりました。その他、起震車体験や消火訓練、救助・救出、心肺蘇生訓練も行い、無事に終了することができました。

両拠点での参加者の感想は、「楽しい防災」だったとの話が多く聞くことができたのは、「訓練が成功したのかな」と思っています。

